



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.60

令和3年12月17日

文責：校長 伊藤 孝行

子どもの発達と親の関わり・高学年

「子ども叱るな来た道じゃ、年寄り笑うな行く道じゃ。」作者は不詳ですが、なかなか味わい深い言葉だと思いませんか。



親「明日は学校だから早く寝なさい。」
子「うるせーな。今、いいとこなの。」
親「いつまで寝てるの遅刻するよ。」
子「眠いんだよ。あと5分。」

多くの家庭で、このようなやりとりが毎日のように繰り返されているのではありませんか。

高学年になると、早い時間は眠くならず、夜になると目がさえ漫画やテレビを見たくなくなるのです。しかし、体はまだまだ睡眠時間を必要とするので朝起きられないのです。

前置きはこれくらいにして、子どもの発達と親の関わりの高学年について述べていきます。

【子どもの発達と親の関わり・高学年】

○ 発達段階に見られる代表的な言動

① 自分が得意なことと不得意なことを自覚し始めます

自分はこれは得意だが、これはできないということが分かってきます。そのため、他人と比べて得意になったり落ち込んだりします。

親は、兄弟や友だちと比較せず、子どもをよく見て、頑張っているところや得意なところを認めてあげてください。

② “他者の目に映る自分”を気にします

自分が友だちからどのように見られるのかがとても気になります。髪型を気にしたり服装に気をつかうようになってきます。また、親と一緒にいるところを友だちに

見られたくない、かっこ悪いと思い、親と距離を置くようになる子どももいます。

おとなになれば、「自分が思っているほど他人は自分に興味がない」ことがわかりますが、この年代の子どもは、小さなことで自信を持ったり失ったりしています。

「そのままが良いんだよ」というメッセージを伝え続けてください。

③ 将来のことを考え不安をもちます

時間の展望能力が付き、2～3カ月から1年先くらいまでを見通せるようになるため、先のことを考えて不安な気持ちになることも増えていきます。

簡単に「そんな先のこと気にしてどうするの」などと言わないでください。

何を不安に感じているのか、丁寧に聞いてもらえるだけでも気持ちが軽くなります。一緒に考えてあげてください。

④ 親に干渉されるのを嫌がります

この年代は親から自立を目指します。そのため親が干渉すると、子ども扱いされたと感じて反抗するのです。



親を嫌って反抗しているわけではありません。安心してください。また、この時期の子どもは、親に依存もしていて精神的にとっても不安定です。

子どもが親に反抗するのは、「反抗しても自分のことを見てくれるよね」「自分を見捨てないよね。」という愛情確認です。この時期の子どもは、親からの愛情を確認できないと失望してしまいます。

腹が立つこともあると思いますが、親として広い心で、子どもの言動を受け止め安心させてください。